



## 子どもの心の健康講座 ⑱

# 子どもの薬物乱用と依存(1)

ニコースなどでは大人の有名な薬物依存や逮捕、といった話題を聞くことが多いのですが、薬物乱用や依存が始まる年齢は、中学生、高校生時代に多く、子どもの心の問題としても重要です。今回から3回にわたって薬物と依存症についてお伝えします。

依存症は、何かの物質や行為などを強く求め、趣味や大切な人間関係よりも、依存の対象を非常に徐々に強く求めるようになります。

状態になる○脳の神経を興奮させて「ハイ」な状態になる○意欲や集中力を高める○幻覚が見えたり幻聴が聞こえるーという作用があります。

コール類、たばこに含まれるニコチン、カフェインも強い依存を引き起こす薬物です。

依存の影響によって社会生活や人間関係に支障を来とし、本人や家族がとても苦しんだりして困るものです。自分の意思だけでは依存している物質や状態を止めることができません。

違法である大麻、ヘロイン、LSD、覚せい剤、危険ドラッグなどの合成薬物、シンナーなどに加え、違法ではないものでは、いわゆる脱法ドラッグやドラッグストアなどで買える市販薬、病院での処方薬があり、嗜(し)好品とされるアル



たばこは、親や身近な大人の喫煙によって、幼児期に受動喫煙を経験し、それがのちにニコチン依存につながる

しかしきちんとした治療やサポートを受けることによって平常状態へ回復は可能です。

依存を起す物質は非常にたくさんあります。○脳の神経の働きを麻痺させてリラックスさせる○多幸感が得られるなど「酔った」

す。小学校入学時で「家人のたばこ」による喫煙経験が男子で7・9%、女子で2・5%ある、という日本でのデータがありま

す。地域差はありますが、小学年齢の飲酒経験が非常に高い、という深刻な実態もあります。

### 依存の始まりは喫煙、飲酒の経験から

薬物への依存の始まり方は、中学生時代の喫煙や飲酒を契機とする場合も多いようです。薬物の中で、おしゃべりにパッケージされている合成麻薬や危険ドラッグは、含まれている成分が分かりません。知り合いに勧められるなど軽い気持ちで使用して、けいれんや心臓発作など命に関わる場合もあります。

学校などの社会生活、学業、家族、友人との関係が断絶してしまうなど大きな影響を与えます。自傷行為も非常に多く、高校生の約1割はリストカットの経験があるとされています。

一方、行為依存は、パチンコ、競馬、競輪、ポト、宝くじなどギャンブルやインターネットゲーム、スマートフォン、買い物、性に関わる行為、自傷行為などがあります。

次回薬物乱用や依存の背景、対応についてさらに詳しくお伝えします。

ゲーム、インターネット依存は激増し続けており、

児童精神科医  
北 畑 歩